

病害虫発生予報 第7号

富山県農林水産総合技術センター所長

10月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
大豆	紫斑病	やや多い	果樹	ニホンナシの輪紋病	並
野菜	白ねぎのさび病	少ない		ニホンナシのナシヒメシンクイ	やや多い
	白ねぎの軟腐病	並		ブドウのべと病	並
	白ねぎの黒斑病・葉枯病	並		カキ（三社）の炭疽病	並～やや多い
	白ねぎのネギアザミウマ	並		カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	並～やや少ない
	白ねぎのネギハモグリバエ	多い		モモのせん孔細菌病	並～やや多い
	白ねぎのシロイチモジヨトウ	やや少ない	花き 球根	チューリップの球根腐敗病	やや多い
	ハスモンヨトウ	少ない		きくの白さび病	少ない
	タバコガ類	やや少ない		アブラムシ類	並
果樹	リンゴの褐斑病	やや多い		ハスモンヨトウ	少ない
	リンゴの輪紋病	並		タバコガ類	やや少ない
	ニホンナシの黒星病	並～やや少ない			

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974
 情報参考 URL
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

I 大豆

1 紫斑病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・主要感染時期である8月中～下旬の降水量が多かった（平年比約210%）。

(3) 防除対策

- ・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・刈遅れは発病を助長するので、刈り遅れに注意し、収穫後は速やかに乾燥する。

II 野菜

1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・9月25日調査の発病株率は0%で平年（2.4%）より低かった。

(3) 防除対策

・防除指針 109 ページ参照

2 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・9月25日調査の発病株率は4.0%で平年（5.7%）並、10月の降水量もほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- ・防除指針 110 ページ参照

3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・9月25日調査の発病株率は1.0%で平年（10.2%）より低かったが、風害による葉先枯れが多発している。

(3) 防除対策

- ・さび病の防除に努める。
- ・防除指針 110 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 9月25日調査の被害株率は47.0%で平年(57.6%)よりやや低かったが、10月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 111～112 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・ 9月25日調査の被害株率は40.0%で、平年(22.6%)より高かった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 111 ページ参照

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 9月25日調査の被害株率は0%で平年(1.1%)より低く、フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数も120頭で平年(151頭)よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 112 ページ参照

7 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は298頭で、平年(582頭)より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 78～147 ページのハスモンヨトウの項参照

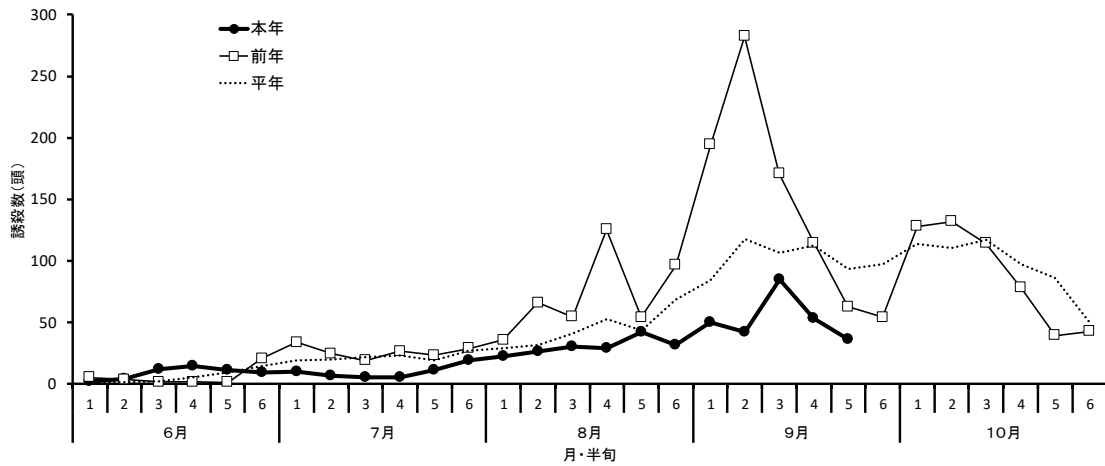


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数推移

8 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが34頭で平年(63頭)より少なく、オオタバコガも82頭で平年(124頭)よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 78～144 ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

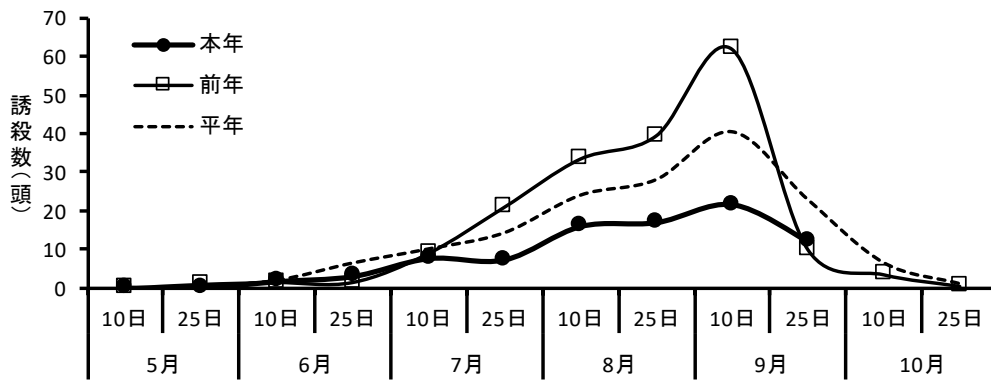


図2 フェロモントラップによるタバコガの誘殺数推移

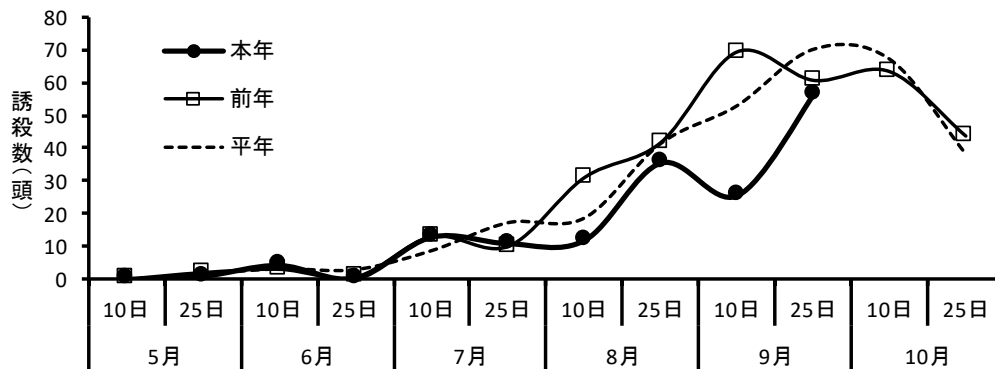


図3 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数推移

Ⅲ 果 樹

1 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ これまでの発生量は並～やや多く、特に8月中旬以降の発生量はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・ 収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・ 長雨が予想される場合や発生が多い園地では殺菌剤を散布する。なお、QoI剤（混合剤を含む）の使用は、耐性菌出現防止のため、原則年2回以内にとどめるとともに、連用を避ける。
- ・ 病原菌の越冬密度を下げるため、発生が多い園地では、休眠期に被害落葉を園地外に持ち出すなど落葉処理を徹底する。また、せん定作業では、翌年の薬剤の到達性を高めるため、混み合った枝や薬剤の届きにくい徒長枝などをせん除する。
- ・ 防除指針 150, 152～154, 158～159ページ参照

2 リンゴの輪紋病

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 前年の発生量は平年並であった。

(3) 防除対策

- ・ 収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・ 病原菌の越冬密度を下げるため、休眠期に病斑（イボ皮）の切除、削り取りを行う。
- ・ 防除指針 150, 154, 158～159ページ参照

3 ニホンナシの黒星病

(1) 予報内容 発 生 量：並～やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ これまでの発生量はやや少なかったが、一部園地で発生が多かった。

(3) 防除対策

- ・ 芽基部感染による病原菌の越冬密度を下げるため、10月上中旬以降、10～14日間隔で2回秋季防除を実施する。また、発生が多かった園地では、11月上旬に殺菌剤の追加散布を実施する。
- ・ 罹病落葉による病原菌の越冬密度を下げるため、落葉処理（園外に持ち出し適切に処分、乗用草刈機による粉碎処理、ロータリによる土壌すき込み等）を徹底する。
- ・ 防除指針 163～164, 169ページ参照

4 ニホンナシの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ これまでの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ 病原菌の越冬度を低くするため、休眠期に病斑（イボ皮）の切除、削り取りを行う。
 - ・ 防除指針 161ページ参照

5 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・ フェロモントラップによる8月5半旬～9月4半旬の誘殺数は43.8頭で平年（61.8頭）並であるが、幸水および中生品種での被害果がやや多かった。
- (3) 防除対策
 - ・ 被害果は見つけ次第速やかに園地外で処分する。
 - ・ 防除指針 163, 166～167, 170～171ページ参照

6 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ これまでの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ 病原菌の越冬密度を低くするため、感染源となる被害落葉を集めて園外に持ち出し適切に処分する。
 - ・ 防除指針 172～175ページ参照

7 カキ（三社）の炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：並～やや多い
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・ これまでの発生量は平年並だが、一部園地で発生がやや多かった。
- (3) 防除対策
 - ・ 罹病した枝や果実は見つけ次第除去し、適切に処分する。
 - ・ 台風等風雨後はDMI剤を散布する。
 - ・ 病原菌の越冬密度を下げるため、罹病枝はせん定時にせん除する。
 - ・ 防除指針 177～179ページ参照

8 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並～やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ フェロモントラップによる8月5半旬～9月4半旬の誘殺数は506頭で平年(1,876頭)よりやや少なかったが、一部園地では発生がやや多い。

(3) 防除対策

- ・ 発生の多かった園地や樹では、越冬幼虫の密度低下を図るため、粗皮削りを実施する。
- ・ 防除指針 177～178, 180～181ページ参照

9 モモのせん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量：並～**やや多い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ これまでの発生量は平年並だが、一部園地で発生がやや多かった。

(3) 防除対策

- ・ 病原菌の越冬密度を下げるため、発生が多い園地では10月上旬にICボルドー412(30倍)を追加散布する。
- ・ 台風等強風が予想される場合は、強風前に防除する。
- ・ 防除効果を高めるため、防除前に秋季せん定を実施する。
- ・ 防除指針 183, 186ページ参照

IV 花き・球根

1 チューリップの球根腐敗病

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 一部で貯蔵球根に球根腐敗病の発生がみられる。
- ・ 10月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 種球の選別を徹底する。
- ・ 地温の高い時期の球根植付けは発生を助長するので、適期の植付けに努める。
- ・ 植付け前の球根消毒を確実に行う。
- ・ 防除指針 198、199ページ参照。

2 きくの白さび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 9月25日調査の発病株率は0%と平年(1.6%)より低かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 201～202ページ参照

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・黄色水盤による8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は996頭で、平年（1,329頭）よりやや少なかったが、10月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 199～224ページのアブラムシ類の項参照

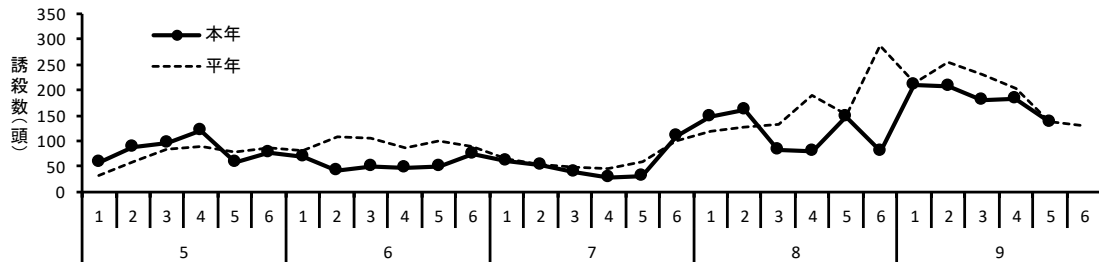


図4 黄色水盤によるアブラムシ類の誘殺数推移

4 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は298頭で、平年（582頭）より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 209～228ページのアブラムシ類の項参照

5 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが34頭で平年（63頭）より少なく、オオタバコガも82頭で平年（124頭）やや少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 208～228ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

北陸地方 3か月予報

(10月から12月までの天候見通し)

令和元年9月25日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率50%です。

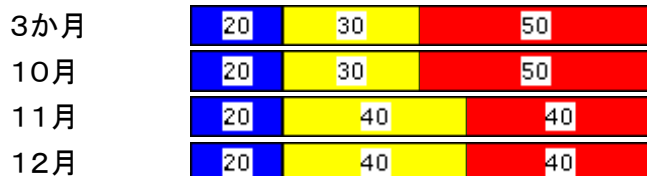
11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

12月 平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

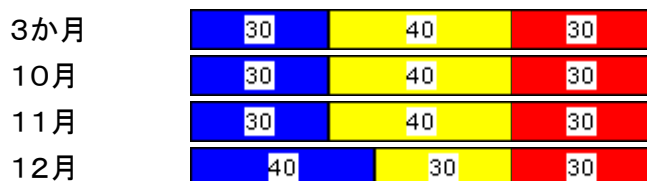
【気 温】

[北陸地方]



【降 水 量】

[北陸地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)